



特集

麻酔科の紹介

麻酔科医師 熊野 夏美
日本麻酔科学会 専門医



私が医師になったころ、卒業後すぐに希望科での研修を始めるのが標準的な道でした。どの科に進むか迷いもあり、「どの科に進むにしても麻酔科で研修をしておく、人間の全身を深く学べるからいい。医師として歩む基礎的なことが身につく。」という麻酔科医師のすすめもあり「とりあえず麻酔科」を選択しました。麻酔科での仕事の実際を知らない方にはこの理由が分からないのではないかと思います。医学生や医師、看護師のような医療関係者も知らないことも多いのではないのでしょうか。

そこで今回、麻酔科の紹介をさせていただこうと思います。

麻酔科の仕事

意識消失（不快でないのであれば意識はあってもよいのですが、消失前提のことが多いです）、不動（手術中に動くと危険です）の状態がかつ心臓などの全身の臓器機能が正常に保たれた状態を維持するのは特殊な状況です。人工呼吸は高頻度で必要となりますし、心臓の手術では心臓が止まった状態でないといけない手術も多いため、人工心肺を使います。自分の心臓の力だけでは全身の臓器を正常に維持することが困難な場合には心臓の力を補助する薬剤や補助的な機械も使います。そういう特殊状況から機械や薬剤が不要な状況へ移行するまでを専門的な知識、技術、経験を使って「麻酔」するのが日々の仕事です。通常は機械や薬剤が不要な状況への移行は問題なく行えるのですが、これが困難な場合は事前に十分に説明したうえで選択をしていただきます。

心機能低下、呼吸機能低下などがある場合に「麻酔しても問題ないか」という質問を受けることがありますが、麻酔そのものよりもその手術ができる（術後も含めて）だけの体力があれば、たいてい大丈夫です。術前の状態と手術の内容の組み合わせにより、術後の状態が術前同様とはいかなくなる場合があります。

麻酔とは

「麻酔」のイメージと言えば、魔女が手術時間・手術内容・患者さんの年齢などの緒因子をもとに薬の種類や量を配合して決め打ちしているというものではないのでしょうか。

患者さんに麻酔について説明させていただくときに「麻酔薬は目的に応じたお薬を濃度や投与量調節はしますが、基本的には流し続けますので、途中で醒めることはないです。」とお伝えすると意外そうな反応をされます。そして、よく聞かれる質問に「終わっても醒めないことはないですか。」というものがありますが、それに対しては「個人差はありますが、必ず麻酔薬は体から出て醒めます。ただし、麻酔中に脳梗塞など意識が悪くなるような病気になった場合は別です。しかし、それを確実に麻酔中に診断して治療する方法はありません。」とお伝えします。ただし、心電図チェックや血圧測定を頻回に行い、異常がない状態であればたいていあたかも手術前であるかのような目覚めであることが多いとお伝えすると安心していただいています。

そういった安全である状態とより快適な術後を達成するために地味ですが、進歩し続けています。同じ手術を受けるなら、この病院が良かったと言ってもらえるようそうした進歩を勉強し、麻酔という診療に生かしています。



麻酔と吐き気

麻酔といえば、「吐き気が気になる」という方が多いのではないのでしょうか。

当院では術後の嘔気嘔吐おうきおうとに関する研究も行い、学会発表し、論文掲載(注)もされました。

吐き気に関しては海外では術後にも使われていたオランダンセトロンとグラニセトロンが2021年に日本でも術後の消化器症状(悪心、嘔吐)に対して、効能・効果が追加されました。術後に吐き気はなかったという方も多くなっていますが、治療ではなく予防ということを意識するようになってきていることもその要因です。



おわりに

手術という治療を選択された方が安全かつその治療の最大の効果を得られるような場を提供し、安心して周術期を過ごしていただけるためのスペシャリストが麻酔科医だと自負しています。そして、今後とも手術を必要とする方に多くの場を提供できるように努めていきます。

注…「論文」

久保 飛鳥, 熊野 夏美, 柳田 大輔, 廣井 一正, 上原 健司: オピオイドフリーの術後管理が胸部外科手術後の悪心・嘔吐の発生に与える影響傾向スコアマッチングを用いた後ろ向きコホート研究. 麻酔 70:1303-1309, 2021

当院でも化学療法の悪心、嘔吐に対して院内採用し使用していたグラニセトロンを麻酔中に予防的に投与するようになりました。



バードウォッチング

「くちばしの形状イロイロ(水辺の鳥)」

記：外来予約センター
浜田千代子



蓮田に立ち寄る鳥たちは、その食性から様々な形状の嘴(くちばし)をしています。長い嘴は水中や地中、あるいは岩場に突っ込んだり、探ったりして採餌するのに適しているようです。



ソリハシシギ



チュウシャクシギ



ソリハシセイタカシギ



コウノトリ



オオソリハシシギ



ホウロクシギ



オオハシシギ



ヘラサギ

今月の表紙：手術室入り口



当院では、手術をされる患者さんが手術室に入る前、前室(手術室入り口)というところで担当医・麻酔医・手術室看護師により患者さんの確認をしています。

